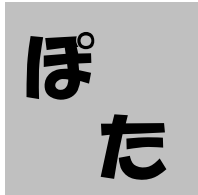



特定非営利活動法人POTA（精神科作業療法協会）就労支援事業部

障害者自立支援センターニュースレター

第14号 2009年 7月 発行



- ショパンきく梅雨の午後二時ラジオにて
- 万緑も梅雨に濡れぬれ野山暮れる
- 若き日の不勉強悔ゆ梅雨の夜

「お体をお大切になさって頂きとうございます」と、毎回必ずていねいな言葉を書き添えて俳句を送って下さったN氏の作品です。

精神療養所時代、職員も療養者もわけへだてなく集うことのできた俳句会がありました。私が療養所を離れ、この会は解散となり、その後転院したり、結婚し子育てに入られた方など、それぞれのあゆみの中から、折々に手紙で私に近作を寄せてくださった何人かのお一人です。私はワープロで印刷し手作り製本して皆さんにお届けしたり、たまには顔合わせをかねて野山へハイキングしたりしました。

こんな風にしてでも、いっしょに生きてゆけたらとの願いを持ちつつ、相談コーナーに関わらせていただいています。 (あさうみ)

第5回研修会の報告

POTA 就労支援事業部 第5回研修会が2009年5月26日（火）午後開催されました。

テーマ：『就労支援の実際』～法的制度および実践例を踏まえて～

会場：社会福祉法人 JHC 板橋会

- * 社会就労センター プロデュース道（就労移行支援事業）
- * 障害者就業・生活支援センター ワーキング・トライ

参加者は23名。研修の初めに、当事者の実践場面を見学する機会として、プロデュース道の「レストラン風見鶏」にて昼食（日替わり弁当・飲物付）を頂きました。メンバーの皆さんの真面目な接客ぶりを拝見し、食事のおいしさにも満足。その後グループに分かれての施設見学はすべてメンバーによるものでした。細やかで丁寧な案内はとても慣れたもので、日常の活動の様子が伝わってきました。

施設見学の後、各々の施設長から施設の概要、実践例、就労支援の法的制度等についてお話いただ

きました。JHC 板橋会の設立経過から現在の法人内及び地域との連携の実績を具体的に知り、そのパワーに感心させられました。事業報告の冊子や就労支援の手引きなどの充実した貴重な資料も頂き、感謝しつつ研修会を終えることができました。

参加者の実感をお伝えできると思いますので、終了後、頂いた感想メールやアンケートの中から、その一部をご紹介します。「今日は、OT メンバーの Y さんと初の就労支援事業部研修に参加できて、嬉しかったです。半日とは思えない、かなり濃厚な時間でした。以前プログラムで伺った時とは違う切り口の話が沢山聞けました。スタッフの強さと温かさに触れ、自分の在り方を考えさせられた一日でもありました。また、研修構成が贅沢で、就支事業部の層の厚さやまとまり感も感じました。メンバー Y さんの就労への意識も早速変化があったようで、帰り道に今まで自分が焦って行ってきた就職活動を振り返る発見も聞かれました。」「実際の活動の場が見られたのはとても新鮮でした。こういう機会をもっと増やしてほしいですね。」「就労支援の実際をととても詳しくわかりやすく教えていただきありがとうございました。施設見学も、利用者の方のご説明がすばらしかったです。」「幅広く手厚い支援内容だったので参考になりました。実際に施設の見学をしたり、VTRを見たりすることでイメージもつきやすく、わかりやすかったです。職場でも、できるところから取り入れていけたらと思います。」「施設のメンバーに見学の説明をしていただき、メンバーの力の高さを感じました。世良さん、佐藤さんの説明は具体例が組み込まれていてわかりやすかったのですが、雇用に関する専門の法律や制度などの名称が長くて難しい印象を受けました。自分の勉強不足を感じました。」

食事についても2～3の感想をご紹介します。「ランチも食べることがセットになっていてお得感がありました。」「おいしい昼食をいただけて、支援の場も見学できたのでよかったです。お店の雰囲気もよかったです。」「とてもおいしくいただきました。メンバーの働いている姿が印象的でした。」「昼食はおいしかった。ライス、小盛・ふつう・大盛があって良い。」等でした。

情報アラカルト

ここでは就労支援および精神保健福祉に関連した情報を紹介させていただきます。

リカバリー全国フォーラム 2009

～日本の精神保健福祉サービスを”当事者中心”に変革するために～

■会期：2009年8月21日(金)、22日(土)

■会場：日本社会事業大学・清瀬キャンパス
(東京都清瀬市)

■趣旨：こんにち日本の精神保健福祉サービスは目まぐるしく変化しています。

しかし、これらの動きが精神障害をもつ方々にとって本当に役立つ改革なのか、真に有用な取り組みが導入されているのか、確かな実感を持てずにいる方も多いのではないのでしょうか。

このような中、当事者・家族は何を目ざして必要なサービスを求め、また支援者は何を目標に支援サー

ビスを提供して行けば良いのでしょうか。

この全国フォーラムで皆さんとともに討議する「リカバリー」とは、精神障害をもつ方々がそれぞれの自己実現やその求める生き方を主体的に追求するプロセスのことです。アメリカ大統領委員会勧告にも明記されるなど、世界の関係者から注目される支援の目標です。

本フォーラムでは、これから毎年、さまざまな立場の人たち（精神保健福祉関係者、当事者、家族、市民など）が全国からつどい、「リカバリー」について共に考え、理解を深め、「リカバリー」を促進する支援方法や実践プログラムのあり方を”当事者中心”の視点から検討したいと思います。

また、「リカバリー」の実現に有用で、効果のあがる実践プログラムや支援方法を、全国的なネットワークを形成して、普及・定着・発展させることを目指します。

日本の精神保健福祉サービスを“当事者中心”に変革し、「リカバリー」理念に基づく効果的な支援方法・実践プログラムを、実践の積み重ねと関係者間の対話の中で、より良いものに築き上げていくことに強い意欲と熱意を持つ精神保健福祉関係者、当事者、家族、市民の皆さんが、全国から積極的にご参画いただくことを心よりお待ちしております。

■主催： 特定非営利活動法人地域精神保健福祉機構（コンボ）
（企画委員長：高橋清久・国立精神・神経センター名誉総長）

■参加者数：約 700 名予定

■参加費：事前受付 7,000 円（当日 8,000 円）、家族・学生 3,000 円、当事者 2,000 円
（「こころの元気+」賛助会員の方は、上記料金より 1,000 円割引）

■主なプログラム（案）

●記念講演「日本における『リカバリー』の発展の可能性(仮題)」

チャールズ・ラップ教授（カンザス大学社会福祉学部）

●シンポジウム

「日本の精神保健福祉サービスを“リカバリー志向”に変革するには」

●トークライブ「リカバリーを語る」

●演特別講演：「アンチスティグマとリカバリー」

高橋清久（国立精神・神経センター名誉総長）

■事務局： 特定非営利活動法人地域精神保健福祉機構（コンボ）〈担当：桶谷・秋山〉

COmmunity Mental Health Welfare Bonding Organization (COMHBO)

〒272-0031 千葉県市川市平田 3-5-1 トノックスビル 2F

TEL: 047-320-3870 / FAX: 047-320-3871 <http://comhbo.net>

7月相談コーナーのお知らせ

7月の相談コーナーは東村山駅近くの東村山市中央公民館での開催を予定しております。

「暮らし」をテーマに、参加者みなさんの生活の知恵を気軽に話し合えるようなひとときにしていきたいと考えています。

キーワード : 一人暮らし、生活の知恵、手抜きの人、息抜き方法、
趣味、習慣、レシピ、便利 など

もし、みなさんに紹介したい参考プリントなどがございましたら、ぜひお持ちください。

日時 : H21年7月18日(土)

時間 : 14:00 ~ 16:00

場所 : 東村山市中央公民館 2階第1集会室

東村山市本町2丁目33番地2

TEL 042-395-7511

問い合わせ先 : 馬場温子 042-391-1953

